

佐伯市戦後五十史(三二)

昭和六十年代～平成七年代の

文化・スポーツ―

矢野 彌生

(会員 佐伯市中山区)

〈前号〉

- 三二 佐々木市政二期八年の歩み
- (一) 佐々木市政の発足と経過
- (二) 特色ある生活環境の整備
- (三) 市民カード制の導入
- (四) 国際交流の推進

三三 昭和六十年～平成七年代の文化・スポーツ

(一) 佐伯の文化

『佐伯氏一族の興亡』の刊行(佐伯氏調査の報告書)

平成元年(一九八九)に刊行した報告書は、第一編「大

神姓佐伯氏と豊後佐伯」、第二編「佐伯氏にまつわる民話・伝説」からなっている。

第一編は、中世史の専門家である橋本操六(大分県総務部総務課参事)が調査し、中世の佐伯氏に関する研究成果をまとめたものである。難解な語句には説明をつけ、意識しており、また史料はできるだけ読み下し文に改め、難しい語句や誤読の恐れのあるものには、ふりがなを付けている。

全体として非常に読みやすく、中世の佐伯の歴史を市民が楽しく読めるように工夫されている。

さらに、第二編の民話や伝説は、地域の人々が語り継いだ歴史の一面をもっており、貴重な資料である。

文化財の指定(市・県指定の文化財)

今回は昭和六十年(一九八五)から平成七年(一九九五)代に指定された二件について、その概要を述べる。

大宮八幡神社の自然林が市指定を受けている。海崎の霞ヶ浦沿岸に面した標高三十七メートルの小丘の頂上に大宮八幡神社の社殿がある。参道と社殿の周囲は、スダジイ・ホルトノキ・ヒメユズリハ・タイミンタチバナ・ミミズ



大宮八幡神社の自然林

バイ等の海岸林である。

さらに、県指

定をうけているのは民俗芸

能として堅田

踊りである。

堅田踊りは

佐伯地方の各

社家に伝えら

れたもので、大

和の三輪神社

の三輪神楽の

系統を引くものとされ、堅田八幡宮に伝わるものが正統

であるという。

堅田踊りは、上方文化の影響を受けて、寛永年間（一六

二四～四四）以後、堅田地区で発達した供養踊りである

（第一表参照）。

第一表 昭和六十年～平成七年代に指定された文化財

分類	指定主体	指定年月日	名称	種類・規模など	備考 (所有・管理)
天然記念物	市指定	H2.3.30	大宮八幡神社の自然林	標高37m余の小丘に常在する海岸林	大宮八幡神社
民俗文化財	県指定	H5.3.5	堅田踊り	堅田地区に、約300年の伝統を持つ。約50種の踊りが受け継がれている	堅田踊り保存会

資料：佐伯市社会教育課資料

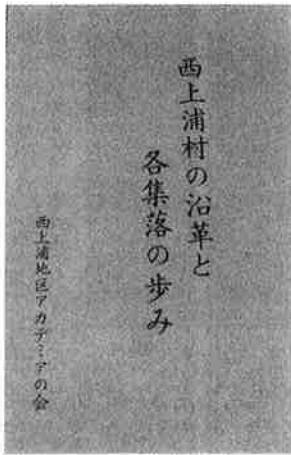
『西上浦村の沿革と各集落の歩み』

〈三年六ヶ月を費やした労作〉

この労作は、西上浦地区アカデミアの会が、平成四年（一九九二）に発刊したもので、会員の野々下晃・宮下良明・山本伝、各氏が中心となって執筆したもので、また地区民有志による投稿によって完成したものである。

本誌は第一編が旧西上浦地域の九集落の沿革について執筆したものである。

さらに第二編は旧西上浦地域の九集落に伝承された古文書・古趾・旧跡・口碑等について、各地域関係有志の人々が発掘・調査研究の成果を発表した貴重な投稿の集成である。



『古市の生活史』の編纂〈古市に残る貴重な生活記録〉

古市の生活史は、古市地区の老人会が「心身すこやか事業」の委託契約を佐伯市長の佐々木博生氏と結んで発足した。

平成五年（一九九三）三月に発刊された本書は四編からなり、第一編は榎牟礼と古市、第二編番匠川と古市、第三編戦時下の古市、第四編古市のくらしからなっている。古市地区の人々の生活記録、体験記が中心となっており、地区の人々の生きざまが飾らない言葉で表現され親しみのある内容になっている。



この冊子は一年間という短期間で完成したものが、老人会と区が一体となって作成し、すばらしい、ずっしりと重みがある作品となっている。

木許讓(古市老人クラブ会長)・香嶋銀一(古市区長)が編纂委員会を設置し、村民が分担執筆したもので、城の研究者で知られた小野英治氏が協力執筆している。

監修は元佐伯鶴岡高校教諭の矢野彌生が担当した。

#### 『大分県真珠養殖漁業協同組合二十五年史』

〈県内初の真珠養殖の歴史書を発刊〉

平成四年(一九九二)四月に発刊された真珠養殖漁業組合史は、戦後の真珠養殖における本格的な歴史書としては最初のものである。

この書は、本文五編と巻末の資料編からなっており、戸高勝平組合長を中心に、高野傑・小野孝司・山中鶴雄の四人が分担執筆している。

組合史の第一編は、大分県真珠養殖漁業組合二十五年史、第二編は大分県真珠養殖漁業の発展過程、第三編は大分県の真珠養殖技術の変遷、第四編は真珠養殖漁業、第五編は県下各地の真珠養殖業最盛期の発展過程と漁業、巻

末は資料編となっており、五四二ページにわたる史書で、監修は元鶴岡高校教諭の矢野彌生が担当。

#### 『佐伯市現代二十年のあゆみ』の編纂事業

〈『佐伯市史』の続編発刊〉

市政三十周年(昭和四十六年)を記念して昭和四十九年に刊行した『佐伯市史』の続編。

佐伯市教育委員会は昭和四十八年(一九七三)から平成五年(一九九三)までの二十年間の出来事をまとめたものを発刊。身近な市報や新聞記事などを基本資料として編纂。評価が定まっていない現代史を客観的に記録するとして年表形式とした。

市民生活に特に関係深い事項は、多くの写真や図表を入れて親しみ深い記述になっている。

また、巻末には『佐伯市の概要』として、位置・面積・自然環境・人口・地区別の世帯数・佐伯地域の通勤通学の状況や行政・議会・産業・建設・水道・消防・治安・住居表示実施一覧など多岐にわたり、統計や分布図などで紹介している。

本書の編纂は矢野彌生が委嘱されて二年間でまとめた

ものである(平成七年三月刊)。

### 各種文化団体の活動

〔昭和六十年から平成七十年代の文化団体〕

昭和六十年から平成七年までの十年間、多くの文化団体が活動しているが、紙面の都合でいくつかの団体について、その概要を紹介したい。

### 佐伯鶴岡高校の社会部

社会部の活動は、昭和四十四年(一九六九)から研究誌



『県南の地理』

を発刊。続けて

活動している。

また、毎年県

大会で発表し、

何度も受賞し

ている。

次に『県南の

地理』の研究テ

ーマと発刊年

をあげる。

・第十七号(大島の漁業について) 昭和六十年度

・第十八号(深島の漁業について) 昭和六十一年度

・第十九号(保戸島の漁業について) 昭和六十二年度

・第二十号(屋形島の漁業について) 昭和六十三年度

・第二十一号(姫島の漁業について) 平成 元年度

なお、姫島の現地調査については、遠距離のために、一泊二日の日程で島の民宿を利用し、一台三〇〇円の自転車を借用して部員五名と顧問の矢野彌生が参加した。

### 佐伯合同短歌会

昭和二十六年(一九五二)から毎年発刊している歌集で、今回は昭和六十年(一九八五)から十年間の歌集について、その一端を紹介したい。

平成七年(一九九五)の歌集「屋形島」についてみると、歌集に寄稿している人は二八四人で、アララギをはじめ、所属はいろいろで無所属の人も多い。

さらに投稿した人を地域別にみると、佐伯市・南海部郡が圧倒的に多いが、そのほか県内では大分市が多く、ほか県内の別府・日田・津久見・三重・玖珠・杵築・白

杵・竹田・耶馬溪・野田・宇佐・中津・庄内・千歳・大野・日出・佐賀関・安岐など広範囲。

県外では福岡・宮崎・出雲・宗像の各市からも投稿、また、昭和中学校の二年生十九人、本匠東中学校の二年生十三人も応募している。

次に、年代と歌集名をあげる。

- ・豊後二見（昭和六十年） ・米華山（平成 三年）
- ・葛 港（昭和六十一年） ・陸地峠（平成 四年）
- ・佩楯山（昭和六十二年） ・井崎川（平成 五年）
- ・仙 崎（昭和六十三年） ・龍王山（平成 六年）
- ・三国峠（平成 元年） ・屋形島（平成 七年）
- ・場照山（平成 二年）

佐伯鶴城高校の新聞部

県学校新聞コンクールで最優秀賞（昭和六十二年）。

佐伯鶴城高校の放送部

NHK全国放送コンテスト全国大会の研究発表部門、ラジオ番組部門で、ともに優秀賞（平成二年）。

（二）佐伯のスポーツ

昭和六十年～平成七年代のスポーツ

昭和六十年（一九八五）から平成七年（一九九五）までの佐伯のスポーツについて、若干の資料をもとに紹介したい。

（水 泳）

佐伯鶴城高等学校の水泳部の活動は、男女ともに好成績をあげている（第二表参照）

年度	主 な 成 績
六〇	・高校県体男子優勝（五連勝） 女子優勝（十四連勝）
六一	・高校県体の団体優勝（男女とも）
六二	・高校県体の団体優勝（男女とも）
六三	・高校県体の団体優勝（男女とも）
平成	・高校県体の団体優勝（男女とも）
元	・水泳部女子 福岡国体百米自由形 第三位（藤原はるか）
二	・高校県体の団体優勝（男女とも）

第二表 佐伯鶴城高校水泳部の活動

年度	主 成 績
平成	
三	・高校県体の団体優勝 (男女とも)
四	・高校県体の団体優勝 (男女とも)
五	・高校県体の団体優勝 (男女とも)
六	・高校県体の団体優勝 (男子)
七	・高校県体の団体優勝 (男子)
※高校県体Ⅱ高校県総合体育大会	

(佐伯市学校教育史要覧)

第二表 佐伯鶴城高校水泳部の活動

年度	主 成 績
六〇	・高校県体男子優勝 (二〇連勝) 女子優勝
六一	・高校県体の団体優勝 (男女とも)
六二	・高校県体の団体優勝 (男女とも)
六三	・高校県体の団体優勝 (男子)
平成	・高校県体の団体優勝 (男子)
六	※高校県体Ⅱ高校県総合体育大会

(佐伯市学校教育史要覧)

第三表 鶴城高校体操部の活動

年度	主 成 績
六〇	・鶴岡高校高校県体優勝
六一	・鶴岡高校高校県体優勝
六二	・鶴岡高校高校県体優勝
六三	・鶴岡高校高校県体優勝
※高校県体Ⅱ高校県総合体育大会	

第四表 レスリング部の活動

(体操)

体操競技では、佐伯鶴城高校の体操部が高校県体育大会で何度も優勝している。その詳細は第三表の通りである。

(レスリング)

佐伯鶴岡高等学校のレスリング部の活動をみると、第四表の通りである。すなわち、昭和六十年(一九八五)から平成七年(一九九五)まで、毎年県体育大会で優勝している。

また、文理大付属高等学校は平成三年(一九九二)の国民体育大会個人で、島本徳明が五位に入賞している。

年度	主な成績
平成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡高校高校県体優勝</li> </ul>
元	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡高校高校県体優勝</li> </ul>
二	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡高校高校県体優勝</li> </ul>
三	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文理大付属高校・国体個人五位入賞 (島本徳明)</li> </ul>
四	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡高校高校県体優勝</li> <li>・鶴岡高校高校県体優勝</li> <li>・鶴岡高校国体個人三位 (阿部大輔)</li> </ul>
五	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡高校高校県体優勝</li> <li>・鶴岡高校高校県体優勝</li> </ul>
六	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡高校高校県体優勝</li> </ul>
七	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鶴岡高校高校県体優勝</li> </ul>

※高校県体Ⅱ高校県総合体育大会  
(佐伯市学校教育史要覧)

第四表 レスリング部の活動

全国高校体育大会で女子弓道団体優勝した佐伯鶴岡高校女子弓道部は五日、列車で帰郷。佐伯駅前広場で歓迎式が行われた。

優勝旗と楯を持って列車から降りてきた選手八人を同校生徒、PTA、同窓生、一般市民ら約二百人が出迎えた。



佐伯鶴岡高等学校女子弓道部  
全国高校総合体育大会にて優勝

(弓道)

佐伯鶴岡高校弓道部(女子)は、全国高校総合体育大会で見事優勝。新聞報道で次のように伝えている。



式では、まず長野健二監督の成績報告と選手紹介。

小野義人校長が挨拶。小田高義俱会議員、佐伯市の柴下正実市長職務代理、佐伯商工会議所の宮本孝義専務、成迫秀治同校生徒会長等が祝辞（中略）。

このあと、市内パレードをした。

チームは決勝トーナメント一回戦で昨年の優勝校、愛媛県の松山を十四対十二で破ったあと、落ち着いた試合運びで勝ち進み、決勝では地元の高水を下した。

〔大分合同新聞〕 昭和六十一年八月六日版

〈引用資料〉

・『大分合同新聞』（昭和六十一年八月六日版）

・『創立四十周年記念誌』

（佐伯鶴岡高校昭和六十二年）

・『佐伯市学校教育史要覧』

（郡市退職校長会編 平成八年十二月）

・佐伯市社会教育課資料（文化財）

・『佐伯氏一族の興亡』（佐伯市 平成元年）

・『西上浦村の沿革と各集落の歩み』

（西上浦地区アカデミアの会 平成四年）

・『古市の生活史』（古市地区老人会 平成五年）

・『大分県真珠養殖漁業協同組合二十五年度史』

（大分県真珠養殖漁業協同組合 平成四年四月）

